



町長のメールアドレスには多くの方々からメールをいただく。町政への素朴な疑問や批判はもちろん、目を見張るような政策提言もあり、私は毎朝、アドレスを開くことを楽しみにしている。

そんな中で数こそ少ないが時々、嬉しくなる感謝のメールが届くことがある。

先日もあった。

「先日、高根沢町役場に勤務されている方の善意により、私たちの娘に合うスキー靴が届けられました」で始まるメールには、先天性の病気のために、履けるスキー靴を入手することが困難なお嬢さんの「どうしてもスキー教室に参加したい。もっとスキーをやってみたい」という願いを真摯に受けとめた職員が、その願いを実現するために東奔西走したことが書かれてあつた。

このことで一生懸命に汗を流してくれた何人かの課をまたぐ職員の話によれば、スキー教室参加の際には既製のスキー靴を素人ながら改造したこと、引率の先生の暖かい理解も得ることができたこと、その後スキーイメージに事情を話したところ、すぐにブーツメーカーとの連携をとつてくださり、通常の業務とは別に、ボランティアで内側の布製の部分や留め金を手作業で加工してくれたこと、しかも無償での提供とのことだつた。

「やりたいけれど自分の力では無理なことがあつたら、手伝つてもらひなさい。きっと助けてもらえるよ。」と励ましてきましたが、このスキー靴は、多くの方々の思いやりや励ましを、今後も娘に伝えてくれることでしょう」とメールは結んであつた。

自治体組織の硬直化が叫ばれて久しい。自分たちの守備範囲をできるだけ限定し、そこに塹壕を掘り身を潜めてしまう縦割り行政のタコツボ意識が、どれほど施策や業務を横へつなげ、総合化・連携化することを困難にしているか計り知れない。自分の担当以外の事に直面しても「だから、できない」とあきらめるのではなく、どうすればその問題を解決することができる

このことで一生懸命に汗を流してくれた何人かの課をまたぐ職員の話によれば、スキー教室参加の際には既製のスキー靴を素人ながら改造したこと、引率の先生の暖かい理解も得ることができたこと、その後スキーイメージに事情を話したところ、すぐにブーツメーカーとの連携をとつてくださり、通常の業務とは別に、ボランティアで内側の布製の部分や留め金を手作業で加工してくれたこと、しかも無償での提供とのことだつた。

このメールを読んだのは2月4日、立志式の日であつた。北中・阿中で2年生に話をしたばかりであつた私は、メールの返信に「見事に立志した職員の姿をお知らせくださいがとうございました」とは別に、ボランティアで内側の布製の部分や留め金を手作業で加工してくれたこと、しかも無償での提供のことだつた。

「やりたいけれど自分の力では無理なことがあつたら、手伝つてもらひなさい。きっと助けてもらえるよ。」と励ましてきましたが、このスキー靴は、多くの方々の思いやりや励ましを、今後も娘に伝えてくれることでしょう」とメールは結んで嬉しくて嬉しくて、ありがたかった。

町長記

